

【テーマ1】 活力と魅力ある都市空間の創造

めざす方向	<p>◎大都市としてこれまで蓄積された都市資源のポテンシャルを最大限活用し、2025年の大阪・関西万博開催を見据え、大阪の都市構造の大胆な転換などにより、活力と魅力ある都市空間の創造をめざします。</p> <p>(中長期の目標・指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の大阪都心部の都市空間の姿を示した「グランドデザイン・大阪(*1)」や関西全体を視野に府域全体の都市空間の姿を示した「グランドデザイン・大阪都市圏(*2)」のもと、圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造を進める。 ・ 新たな住宅まちづくり政策の方向性を示した「住まうビジョン・大阪(*3)」のもと、多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造を進める。 ・ 2025年の大阪・関西万博開催に向け、誰もが安全で快適に目的地に移動でき、施設を利用できるよう「ユニバーサルデザインのまちづくり」を進める。 ・ 広域的な視点と地域的な視点からの景観形成の方向性を示した「都市景観ビジョン・大阪(*4)」に基づき、美しく魅力ある都市景観形成を進める。
--------------	---

圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（R2.3月末時点）＞
<p>■「グランドデザイン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大阪駅周辺地域についてリニア中央新幹線等の開業による波及効果を活かしたまちづくりの方針の検討を行い、方針の骨格を作成する。 ・うめきた2期において、民間事業者の提案内容等を踏まえ、みどりとイノベーションの融合拠点(*5)の形成に向けた取組を進める。 ・なんば駅前の広場化の実現に向け、「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」に基づいた道路空間の再編等について市や関係者と協議調整する。 <p>(スケジュール)</p> <p>R元(2019)年度末 : 新大阪駅周辺地域についてまちづくりの方針の骨格を作成</p>	<p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大阪駅周辺地域において、担うべき役割や導入すべき都市機能について検討し、スーパー・メガリージョンの西の拠点となるまちづくりに向け取組を進める。 ・うめきた2期やなんば駅前周辺等の取組により、「グランドデザイン・大阪」に基づく取組を着実に進める。 	<p>■「グランドデザイン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議」を開催。検討協議会として、「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針の骨格」をとりまとめ。 ・うめきた2期において民間事業者の提案内容を踏まえ、土地区画整理事業の事業計画の変更を実施。また、「うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」において、国内外への情報発信を目的としたイベント「イノベーションストリーム KANSAI」の開催や、「みどり」のフィールド活用に向けた実証研究プロジェクトなど先行的な取組を実施。 ・なんば駅前の広場化について、みどりを備えた駅前広場の整備に向け、市や地元協議会と協議調整を実施。 ・夢洲において、国際観光拠点の形成に向け、今後、具体的にまちづくりを進めるため、経済界、府、市により「夢洲まちづくり基本方針」を策定。 ・大阪城東部地区について、新大学都心キャンパスの立地を契機に、府・市、大学法人や地権者が参画する検討会を開催し、「大阪城東部地区のまちづくりの方向性（案）」をとりまとめ。 <p>R元(2019)年 9月 : 「第2回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検</p>

■「グランドデザイン・大阪都市圏」の推進

- ・「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略(*6)」等に基づく具体的な取組みを推進するため、プラットフォーム関係者等と協議・調整を行う。
- ・ベイエリアから京都方面へと展開する広域的なサイクルルート形成に向けた社会実験を実施する。

(スケジュール)

R元(2019)年 秋 : ベイエリアから京都方面と展開し「京奈和自転車道」につながる広域連携による社会実験の実施



◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・行政区域を越えた淀川沿川での取組みや関西一円のサイクルルート形成に向けた取組み等により、広域連携型まちづくりを進める。



■「グランドデザイン・大阪都市圏」の推進

- ・「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」で今年度の取組みなどの意見交換や、継続したまちづくり活動の仕組みづくりに向け、観光連携による収益をまちづくりに還元する試行的取組みを関係者と推進。
- ・「広域サイクルルート形成に向けた連絡会議」を開催。ベイエリアから京都方面と展開し「京奈和自転車道」につながる広域連携による社会実験を実施。また、淀川沿川の「さくらであい館」から枚方、嵐山方面等へ展開する「走行会」を開催。「走行会」において「うめきた 2 期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」と連携し、「みどり」のフィールド活用に向けた実証研究プロジェクトの実施

- 11月 : 「みどり」のフィールド活用に向けた実証研究プロジェクトの実施
- 12月 : 「イノベーションストリーム KANSAI」の開催
「夢洲まちづくり基本方針」を策定
「第 1 回大阪城東部地区まちづくり検討会」を開催
- R2(2020)年 1月 : 「第 3 回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議」を開催
- 2月 : 「第 2 回大阪城東部地区まちづくり検討会」を開催
- 3月 : 「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針の骨格」をとりまとめ
「第 3 回大阪城東部地区まちづくり検討会」を開催
「大阪城東部地区のまちづくりの方向性(案)」をとりまとめ

	▷	<p>ルドを活かした実証研究プロジェクトを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢洲における万博や IR などのまちづくりのインパクトと泉州沿岸部の地域資源を最大限活かし、ベイエリア全体の活性化を図るため、「大阪広域ベイエリアまちづくり推進本部会議」を設置し、ベイエリアのまちづくりについて検討。 <p>R元(2019)年 : 「第 8 回淀川沿川まちづくりプラットフォーム」を開催 6月 : 7月 : 「広域サイクルルート形成に向けた連携会議」を開催 9月 : 「第 9 回淀川沿川まちづくりプラットフォーム」を開催 9月～12月 : 「広域サイクルルート連携事業」社会実験を実施 10月 : 「第 1 回大阪広域ベイエリアまちづくり推進本部会議」を開催 11月 : 「広域サイクルルート連携事業」走行会 12月 : 「第 10 回淀川沿川まちづくりプラットフォーム」を開催</p>
--	---	---

多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（R2.3月末時点）>
<p>■「住まうビジョン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住まうビジョン・大阪」の改定に向け、大阪府住宅まちづくり審議会において空家などのストック等に関する課題検討を行うとともに、同審議会へ住宅まちづくりのあり方に関する諮問を行う。 <p>(スケジュール)</p> <p>通年 : 大阪府住宅まちづくり審議会における課題検討 R2(2020)年 : 大阪府住宅まちづくり審議会へ住宅まちづくりのあり方に関する諮問 3月</p>	▷	<p>■「住まうビジョン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、課題検討部会において、世帯の多様化、住宅ストックの質の向上と活用、健康について議論を実施。「大阪府住宅まちづくり審議会」において、課題検討部会の結果を報告、併せて今後の大阪府の住宅まちづくり政策のあり方について諮問。 <p>R元(2019)年 : 「第 3 回課題検討部会」を開催 6月 : 12月 : 「第 4 回課題検討部会」を開催 R2(2020)年 : 「第 5 回課題検討部会」を開</p>

■ユニバーサルデザイン都市の実現に向けたまちづくりの推進

- ・大阪・関西万博の開催や超高齢社会の進展を見据え、ホテル又は旅館の一般客室に基準を設け、より多くの人が利用しやすいように、大阪府福祉のまちづくり条例を改正する。
- ・面的・一体的なバリアフリー化を進めるため、昨年度末に作成した「大阪府バリアフリー基本構想等作成促進指針(*7)」を踏まえ、旧法に基づく基本構想等の作成・見直しに向けた働きかけを行う。
- ・法に基づく国の基本方針を踏まえ、R2(2020)年度までに利用者数 3,000 人/日以上以上の鉄道駅のバリアフリー化を進めるとともに、バリアフリールートの複数化や乗換え改善等の鉄道駅の更なるバリアフリー化を促進するため、新たな取組みを検討する。

(スケジュール)

- R 元(2019)年 : 大阪府福祉のまちづくり審議会・部会の開催
6月~8月
- 7月 : 大阪府重点整備地区バリアフリー推進連絡会議の開催 (国・市町村・鉄道事業者等)
- R2(2020)年 : 大阪府福祉のまちづくり条例の改正
3月



◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・より多くの人ができるホテル又は旅館の整備を促進する。
- ・市町村における面的・一体的なバリアフリー化を促進する。
- ・鉄道駅の更なるバリアフリー化を促進する。



2月 催
3月 : 「第 44 回住宅まちづくり審議会」を開催、今後の住宅まちづくり政策のあり方について諮問

■ユニバーサルデザイン都市の実現に向けたまちづくりの推進

- ・大阪府福祉のまちづくり審議会の議論を踏まえ、ホテル又は旅館の一般客室に新たなバリアフリー基準への適合を義務づけるため、福祉のまちづくり条例を改正。
- ・「大阪府重点整備地区バリアフリー推進連絡会議」を開催し、市町村への基本構想等の作成、見直しの働きかけを実施。府内 10 市町村と個別協議を実施。
- ・鉄道駅等の更なるバリアフリー化を促進するため、新たにバリアフリールートの複数化及び乗換え改善等に対応した「大阪府鉄道駅等バリアフリー化促進方針」を策定。

- R 元(2019)年 : 「第 17 回大阪府福祉のまちづくり条例施行状況調査検討部会」を開催
6月
- 7月 : 「大阪府重点整備地区バリアフリー推進連絡会議」を開催
- 8月 : 「第 8 回大阪府福祉のまちづくり審議会」を開催
- 11月 : 「第 18 回大阪府福祉のまちづくり条例施行状況調査検討部会」を開催
- R2(2020)年 : 「第 9 回大阪府福祉のまちづくり審議会」を開催
1月
- 3月 : 「大阪府福祉のまちづくり条例」の改正、「大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン」の改訂及び「大阪府鉄道駅等バリアフリー化促進方針」の策定

■「都市景観ビジョン・大阪」の推進

- ・ビュースポット（視点場）(*8)の選定・情報発信と、景観整備機構(*9)等との連携によるビュースポットを活用した府民の景観に対する意識の向上などに取り組む。
- ・公共自らが景観形成の模範となるよう、公共事業における景観面でのPDCAサイクルの確立に向け、有識者による景観アドバイスの試行実施と景観配慮に関する制度の構築に向けた取組みを進める。
- ・古墳周辺区域の良好で美しい景観形成を推進するため、百舌鳥・古市古墳群周辺における屋外広告物の適正化に向けた取組みを進める。

（スケジュール）

- R元(2019)年 夏 : 第1回ビュースポット選定・情報発信
- 9月 : 藤井寺市・羽曳野市との屋外広告物合同パトロール
- 秋 : 景観アドバイスの試行実施
- 年度末 : 公共事業における景観配慮制度の枠組みの作成
- : 第2回ビュースポット公募



（数値目標）

- ・利用者数 3,000 人/日以上 of 鉄道駅へのエレベーター設置補助駅数：2 駅
- ・市町村に対するバリアフリー基本構想等の見直し、作成の働きかけ：見直し 25 市町、作成 10 市町村

◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

- ・多くの人々を惹き付けるきらめく世界都市・大阪の実現に向け、美しく魅力ある都市景観を形成する。

（数値目標）

- ・古墳周辺区域における屋外広告物新許可基準適合件数：36 件

（数値目標）

- ・利用者数 3,000 人/日以上 of 鉄道駅へのエレベーター設置補助駅数：2 駅（布忍駅、高見ノ里駅）
- ・市町村に対するバリアフリー基本構想等の見直し、作成の働きかけ：見直し 25 市、作成 10 市町村

■「都市景観ビジョン・大阪」の推進

- ・第1回景観ビジョン推進部会を開催し、ビュースポットを選定（全 28 ヶ所）。HP や PR 動画等で情報発信するとともに「モバイル景観クイズラリー」を実施。
- ・公共事業 PDCA 制度について、公共事業アドバイス部会において景観アドバイスを試行実施し、景観ビジョン推進部会において中間報告。大阪府景観審議会において、検討結果を報告し、最終とりまとめ。
- ・古墳周辺区域における屋外広告物の適正化業務を実施。



- R元(2019)年 7月 : 「第1回大阪府景観審議会」を開催
- 9月 : 「第1回景観ビジョン推進部会」を開催
- 9月 : 「第1回公共事業アドバイス部会」を開催
- 10月 : 「第2回景観ビジョン推進部会」を開催
- 10月～12月 : 「モバイル景観クイズラリー」の実施
- 12月 : 「第3回景観ビジョン推進部会」を開催
- R2(2020)年 1月 : 「第2回大阪府景観審議会」を開催

（数値目標）

- ・古墳周辺区域における屋外広告物新許可基準適合件数：21 件 ※残る 15 件について引き続き指導

■彩都における新たな都市魅力の創出

- ・東部地区 C 区域における土地区画整理準備組合の設立、業務代行予定者の決定、府市における円滑な都市計画変更手続き等の協議・調整など事業化に向けた取組みを進める。
- ・彩都に競争力の高い産業集積が加速されるよう、積極的なPR活動を実施する。

(スケジュール)

- 通年 : 彩都の企業訪問や見学会の実施
- R元(2019)年 : 土地区画整理準備組合設立
6月~7月
- 6月~10月 : 企業立地意向調査等の実施
~12月 : 業務代行予定者の決定
- R2(2020)年 : 産業展への出展
2月

■りんくうタウンの活性化

- ・にぎわいの創出を図るため、りんくう公園予定地を活用した魅力の高い施設とみどり豊かな憩い空間の整備などに、地元市町や民間と連携して取り組む。

(スケジュール)

- R元(2019)年 : りんくう公園予定地(空港連絡道路北側) スケートリンク施設等をオープン
12月



◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・彩都東部地区における事業化に向けた調整や、彩都全体におけるものづくり企業などの誘致活動により事業を促進し、新たな都市魅力を創造する。

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・地元市町や民間との連携により、りんくうタウンの活性化を進める。



- 11月 : タウン管理財団と都市整備推進センターが合併契約を締結
- 12月 : 都市整備推進センターが公益法人認定法に基づく変更認定を申請
- R2(2020)年 : 都市整備推進センターが変更認定を受け、R2.4に法人統合が決定
2月
- 3月 : 「千里ニュータウン再生取組事例集」、「千里ニュータウンみどりのマップ」を作成

■彩都における新たな都市魅力の創出

- ・東部地区 C 区域の土地区画整理準備組合が設立され、業務代行予定者が決定。
都市計画変更にかかる地元説明会を開催。
- ・42件の企業訪問や産業展への出展、金融機関や経済団体へのPR等を実施。また、1万5千社に対して企業立地意向調査を実施。
現地見学会を実施し、参加企業1社が契約。

- R元(2019)年 : 彩都の企業訪問や見学会を
4月~ 随時実施
- 6月~10月 : 企業立地意向調査等の実施
7月 : C区域の土地区画整理準備組合が設立
- 10月 : 業務代行予定者の決定
10月~2月 : 産業展出展(5回)
- 12月 : 都計変更説明会の開催

■りんくうタウンの活性化

- ・関係機関等と協議、調整が進み、りんくう公園予定地(空港連絡道路北側)のホテル・温浴施設、スケートリンク施設及び市営りんくうアイスパークがオープン。

- R元(2019)年 : ホテル・温浴施設オープン
11月

			12月：スケートリンク施設オープン 市営りんくうアイスパークオープン
--	--	--	---------------------------------------